



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

新年度が始まり、学内は新たな活気に満ちています。入学式を終えた新入生たちが新しい生活に慣れはじめ、上級生もそれぞれの目標に向けた学びを本格化させています。附属病院での臨床実習や、地域の医療・福祉機関と連携した演習・実習など、本学部ならではの実践的な教育環境の中で、学生たちは自らの専門性を体得しつつ、医療専門職としての意識と責任感を育んでいます。

今年度、札幌医科大学は創基 80 周年・開学 75 周年という節目の年を迎えました。これを記念し、式典・記念講演会・記念ホームページの開設をはじめ、年間を通じて多彩な事業を展開してまいります。本学が道民とともに歩んできた歴史を振り返ると同時に、今後も北海道の医療と健康を支える人材を育成するという使命を改めて胸に刻む機会となります。

保健医療学部においても、昨年度の開設 30 周年を機に蓄積された成果を礎とし、今後の社会に求められる新たな教育・研究の展開を推進しております。REP Talk（卒業生による Research・Education・Practice の取り組み紹介）などを通じた情報発信は、学生にとって将来像を描くうえで貴重な教材となっており、今年度も継続的に内容の充実を図っていきます。

さらに、昨年度よりスタートさせたステークホルダー懇談会や外部評価の場を活用し、教育環境や学生支援体制の質的向上に向けた取り組みも継続しています。学生一人ひとりが希望をもって学修に臨み、社会に貢献する専門職として羽ばたけるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。

結びに、保護者・ご家族の皆さまには、日頃より本学への温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



【令和7年度 学事予定】（1～4学年）

4月2日～	4月3日	新入生オリエンテーション
4月7日		前期講義開始
6月5日～	6月8日	大学祭
6月25日		大学記念日
7月22日～	7月25日	前期定期試験（4年生 看護）
8月4日～	8月29日	夏季休業（1・2・3年生）
7月28日～	8月1日	（4年生 看護）
8月11日～	8月15日	（" "）
8月4日～	8月29日	（4年生 理学）
7月22日～	8月1日	（4年生 作業）
9月1日～	9月12日	前期定期試験（1・2・3年生）
9月22日		後期講義開始
10月9日～	10月11日	体育祭
12月5日		文化芸術祭
12月22日～	1月2日	冬季休業
2月18日～	3月5日	後期定期試験（1・2年生）
1月19日～	1月23日	（3年生 理学）
2月18日～	3月5日	（3年生 作業）
3月19日		卒業式



入学式



新入生オリエンテーション

学科長ごあいさつ

看護学科長 今野 美紀



ご入学・ご進級おめでとうございます。昨年度に続き、看護学科長を担っております今野です。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。キャンパス内では本格的な授業の開始に伴い、履修登録を済ませた学生の皆さんが、真剣に授業課題に向き合っていたり、部活動の大会に備えて練習に精を出したりする姿を見かけます。コロナ禍の生活様式がはるか昔に感じられるほど、学内は活気に満ちた様子が伺われます。

さて、看護を志向する人々の動向は、社会の状況と切り離して考えることはできず、少子化や職業志向の変化等に影響をうけております。看護系大学の新設と共に看護を学ぶ人は増えていましたが、近年、その数は減少に転じています。私たちは、今、看護を学ぶことに専心している一人一人の学生の皆さんが、この先も看護に魅力を感じ、生涯学び続ける力が備わるよう支える時代の転換点にいます。そして、これまでわが国の看護教育は、何を教えるか（コンテンツ）を重視した内容でその質を保ってきました。しかし、今日の社会環境の変化から、高等教育にはコンピテンシーを基盤とした教育に変化しています。予測不可能なこの先の社会を支え、課題を発見して解決に貢献すること、価値を見出すこと等が期待されています。こうした社会の期待に本学科の教育が応えられるのか、これまでの本学科の教育活動を照らしてみますと、本学科は人との関りを大切に、多様な価値観・思考を尊重する姿勢で学習目標に適うよう教育し、学生が主体的に学べるよう学習環境を整えて能動的な授業を勧めています。そしてカリキュラムの中に研究を含む課題発見、探求できる科目を複数備え、学生の自由な発想を育むことを大事にしています。その成果は、本学科卒業生の方々が社会の中で力を尽くし、活躍している姿が一つの明確なこたえと言えましょう。本学科での学びに期待し、成長を願う学生の皆さんの力を育んでいけるよう努力して参ります。

保護者の皆様におかれましても、本学科の教育活動に引き続きのご理解とご協力を頂ければ幸いです。

理学療法学科長 菅原 和広



新緑の美しい季節となりました。2025 年度札幌医科大学保健医療学部理学療法学科に入学された皆さま、ご入学おめでとうございます。保護者の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。2025 年 2 月より理学療法学科長を拝命いたしました菅原和広と申します。皆さまを本学科の一員としてお迎えできることを大変嬉しく思います。

本学科は高度な専門知識と技術を持つ理学療法士の育成に力を注いでおり、その成果として 2024 年度の卒業生は国家試験合格率 100% を達成いたしました。これは学生の真摯な学びの姿勢と教員の熱意ある指導、大学全体のサポート体制が結実した結果です。

新入生の皆さんは、これから理学療法学の基礎から臨床応用まで幅広く学ばれることになります。

医療の世界は日々進化しており、理学療法士に求められる役割も拡大しています。超高齢社会における予防医学や最新テクノロジーを活用したリハビリテーションなど、皆さんの活躍できるフィールドは広がり続けています。本学科では、技術習得だけでなく、患者さんの心に寄り添える豊かな人間性を育むことも大切にしています。医療専門職として必要な倫理観や、チーム医療の一員として協働できるコミュニケーション能力の養成にも力を入れております。

私は理学療法学科の一教員として、本学科の更なる発展と皆さんの学びを支援する環境づくりに尽力します。北海道の医療に貢献できる優秀な理学療法士を育成するという使命のもと、教職員一同、誠心誠意取り組んでまいります。皆さんがこの札幌医科大学での学びを通じて、理学療法士としての確かな一歩を踏み出されることを心より願っております。共に医療の未来を創造していきましょう。

作業療法学科長 仙石 泰仁



令和 7 年度がスタートし、入学、進級と学生達も新しいステージで大学生活が始まりました。今の学生たちはコロナ禍で高校や中学時代を過ごした経験があり、メールやネットを上手に使いこなす方が多い印象を持っていますが、一方で、学年を越えた繋がりが以前と比べると少ないように感じています。我々の職業は卒業してからも同級生だけでなく先輩や後輩とも関係が続くことが多く、学生時代のお付き合いは、職業人としての自分を助けてくれる有意義なものであると感じています。サークルなどの食事会は復活してきているようですが、学科としても学年の枠を超えたつながりを持てるように工夫をしていきたいと考えています。また、今年度は作業療法学科の新たな取り組みとして、教育のデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）を推進するために、臨床実習記録などをクラウド上で保存共有する支援システムを導入することになりました。医療現場では 400 床以上の病院で 90%以上が電子カルテを導入しており、多くの卒業生が就職してから利用することとなります。このデジタル化、ICT の活用は医療従事者の業務軽減、情報の即時共有や有効利用などに効果が期待されていますが、教育においても記録方法の習熟や指導者との意思疎通や適時の指導機会の確保などに役立つとされています。現在は 2 学年以降の実習施設への協力を依頼しているところであり、協力が得られた実習地から順次導入していく計画となっています。作業療法学科では最新の知識や技術の教授を行うだけでなく、新しい教育方法なども導入し学生への教育の質を高めていけるようにしていきたいと考えています。今後ともご理解・ご協力をいただけますよう宜しくお願い致します。

リハビリテーション教育評価の認定が得られました（作業療法学科）

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科は、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（JCORE：Japan Council on Rehabilitation Education）による教育評価認定審査を令和6年度に受審し、機構が定める評価基準を満たしリハビリテーション教育に必要な施設基準及びカリキュラムを提供、実施できる養成施設として、認定されました。本学科は平成26年、令和元年にも受審しており今回で3回目の認定となります。JCOREは全国リハビリテーション学校協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会とともに、リハビリテーション教育の質の向上・充実のため、適切な評価システムに基づいた第三者評価を行うために設立された団体です。平成24年から認証評価が全国で開始され、5年に1回更新する必要があります。評価内容は、「基準1 使命・目的・教育理念」「基準2 教員：教員要件や専門性など」「基準3 教育：カリキュラムや教育方法、施設の適合性など」「基準IV臨床実習：時間数や施設、指導者、教育方法の適合性」「基準V学生：受け入れ態勢や支援の充実度」「基準VI管理・財務：管理運営の適切性」「基準VII内部質保証：自己点検評価の適切性」の7つの評価基準の25評価項目について評価されます。本学科はすべての評価基準を満たしており、今回の評価では改善点の指摘もなく「適合（S）」の評価でした。特に、カリキュラムの内容や教員体制、適切な内部質保証の管理について高い評価を受けました。



加えて、今回の教育評価は日本作業療法士協会による世界作業療法士連盟（World Federation of Occupational Therapists：WFOT）の認定校としての審査も同時に実施され、認定を受けることができました。WFOTの認定は国際的な作業療法士教育水準を満たしていること証明するものであり、海外で作業療法士として働く上での一つの基準となっています。WFOT認定校を卒業するという事は、有資格作業療法士であることの国際的認知にかかわる唯一の方法であり、海外で雇用、大学院進学、研修等を行う際にチェックされることが多い資格になります。卒業生の多様な進路に対応できるように、継続して認定されるように教育水準の確保に努めていきたいと考えております。

令和7年度を迎えて 教務委員長（看護学科 教授） 正岡経子

保健医療学部では、この3月に91名の卒業生を送り出しました。卒業式では一人ひとりが呼名され起立・一礼します。その表情からは4年間の医療専門職としての厳しい学びを修めた自信と晴れやかさ、そして社会に出ていく決意も感じられました。そして、新年度4月、保健医療学部には90名の新入生を迎え、3学科の1学年から4学年の合計は362名となり、未来の看護師、理学療法士、作業療法士の教育が始動しました。

保健医療学部は、札幌医科大学が目指す地域医療への貢献のため、人々の健康と生活を支える看護師、理学療法士、作業療法士の養成、及び看護学、理学療法学、作業療法学の発展、実践の向上に寄与する人材を育成することを目指しています。卒業証書は、この目標達成に至る必要な基本的な能力を備えたと認められた人に授与されます。教務委員会は、学生個々がその能力を身につけたかどうかを審議する中核となる組織です。構成員は、保健医療学部3学科の教員9名と医療人育成センターの教員2名の合計11名で構成されています。学修状況の評価に加えて、試験の受験資格、科目成績、単位取得認定の審議が行われます。様々な事情で学修に支障が生じた学生には、学担および副学担からのきめ細やかなサポートがなされます。一方、授業出席認証の不正やレポート課題等の不正行為においては科目責任者や時には学科長からの手厚い指導も行われます。これらの経過も教務委員会で共有され、最終的に各専門職の国家資格取得に向けた支援を行っていきます。

教務委員会の重要な使命の一つに、教育の質保証があります。令和7年2月に中央教育審議会より「知の総和」答申が出されました。この答申では教育研究の質の更なる高度化に向けた具体的方策が示されています。大学という高等教育では「何を教えたか」ではなく、大学教育を通して学生が「何を学んだか」が重要であるといわれてきました。今は、学生が「何を身に付け、何ができるようになったか」、つまり「出口における質保証」に移行しています。札幌医科大学で学んだ出口を客観的に社会に示していくことが札幌医大で学ぶことの価値を示すことにつながっていくものと考えます。今年度の教務委員会は、学修到達度レベルの点検・評価に取り組んでいく予定です。

最後に、今年度も学部保護者説明会を企画しております。皆様のご参加をお待ちしております。



教務委員会のメンバー

保健医療学部学生表彰

保健医療学部では、毎年度、本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の模範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。

令和6年度2学年においては以下の学生が表彰されました。

★池内 愛（看護学科・最優秀賞）

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。この表彰は私個人の力ではなく、これまでご指導くださった先生方、励まし合い共に勉学に励んできた友人、支えてくれる家族のおかげであると感じています。心より感謝申し上げます。今後はより専門的かつ実践的な学習を行うこととなります。学びを支えてくださる周囲の方々への感謝を忘れず、より一層精進してまいります。この度は誠にありがとうございました。

★佐藤 雛妃（看護学科・優秀賞）

この度は成績優秀者として表彰していただき、大変光栄に思います。日々の努力が認められたことはとても嬉しく、今後の励みとなります。この成果は、ご指導くださった先生方や支えてくれた家族、友人のおかげでもあります。心から感謝申し上げます。今後はより難しく専門的な学びを深めていくこととなりますが、皆様の支援に感謝し、より一層の努力を重ねて参ります。ありがとうございました。

★片桐 佑理（理学療法学科・最優秀賞）

このたびはこのような名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。入学から早くも2年が経ちましたが、常に温かく丁寧にご指導くださる先生方や、共に切磋琢磨し勉学に励んできた同期に支えられ、日々新たな学びを得ながら充実した大学生活を送ることができています。しかしながら、まだまだ自身の未熟さを痛感することも多いため、残りの2年間、この恵まれた環境に身を置けることへの感謝を忘れることなく、さらなる成長を目指して、より一層精進して参りたいと思います。

★澤 紀実（理学療法学科・優秀賞）

この度は、このような名誉ある賞を頂くことができた事に青天霹靂としました。このような幸運に恵まれる事が出来たのは、私一人の力によるものではなく、日々の生活の中でお世話になっている家族や多くの学びを与えてくださる教員の皆様、共に学び合ってきた友人たちの力があってこそだと思っております。今後も日々研鑽を積み、臨床の現場でも莞爾として泰然自若と行動出来るような存在を目指していきたいと思っております。

★齊藤 梓沙（作業療法学科・最優秀賞）

この度は名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。このような賞を頂くことができたのは、自分一人の力だけではなく、家族や友人、先生など多くの方々を支えていただいたおかげだと感じています。心から感謝申し上げます。今後も大学生活を充実させるとともに、自分の理想像に向かって日々精進して参りたいと思います。

★北村 優衣（作業療法学科・優秀賞）

この度はこのような名誉ある賞をいただきとても嬉しく思います。この賞をいただけたのは、支えてくれた家族や友人、ご指導してくださった先生方のおかげだと思います。心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れずに医療人としての学びを深め、患者さんやご家族に寄り添うことができる作業療法士になれるように、精一杯頑張って参ります。この度は本当にありがとうございました。



令和6年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は50名が受験し、50名が合格しました。（合格率100%）
- 理学療法士国家試験は21名が受験し、21名が合格しました。（合格率100%）
（※既卒者2名含む計23名の合格率は95.7%）
- 作業療法士国家試験は20名が受験し、19名が合格しました。（合格率95.0%）
（※既卒者2名含む計22名の合格率は95.5%）



※合格率（全国平均）

- 看護師国家試験………新卒：95.9%、既卒者含む：90.1%
- 理学療法士国家試験…新卒：95.2%、既卒者含む：89.6%
- 作業療法士国家試験…新卒：92.5%、既卒者含む：85.8%

